

健康登山78:周辺の山36 (湖北 伊吹山)

コース	伊吹山 山頂駐車場 1.3km/38 西遊歩道經由山頂 0.3km/11 山頂部周遊 1.5km/34 東遊歩道經由山頂駐車場		
水平距離	3.1km	断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km	
水平換算距離			
累計高低差	登り200m、下り200m		
標準歩行時間	1:50		
実績歩行時間	1:23		



山行報告

山行日 2012・8・2 (木) 天候 晴、伊吹山は濃霧 参加者 4名

山科駅前7:30 伊吹山山頂駐車場9:10~9:20 西遊歩道經由伊吹山頂上9:36 お花畑
行動 周遊後昼食10:42~11:30 東遊歩道經由駐車場12:10 醒ヶ井駅前駐車場13:10 地蔵
川の梅花藻鑑賞 駅前駐車場13:55 山科駅15:00

記録

高山植物の鑑賞を目的にしてマイカーで伊吹山に登った。伊吹山は周辺の山シリーズの最終回に予定していたが、季節を考慮して8月に実施したものである。

下界は晴れていたが、伊吹山の山頂部はガスに覆われていた。ドライブウェイを利用して山頂駐車場に着いたときは肌寒くて長袖シャツを着て歩いた。

標高1250mの駐車場には『伊吹山頂お花畑案内図』があり、1377mの山頂へ向って三つの遊歩道が設けられている。ゆっくりと花を楽しみながら登る西遊歩道、直線的に登る中央遊歩道、下り専用の東遊歩道である。高山植物保護のため遊歩道以外は立ち入れ禁止である。

西遊歩道から高山植物を觀賞しながらゆっくり登り、山頂部を散策した。山頂に近付くにつれてガスが濃くなり、撮影した花の写真もぼやけていた。花を見ながら中央遊歩道を少し下り、山頂に登り返したところで少し早目の昼食をした。

シモツケソウ、メタカラコウ、クガイソウ、コオニユリが咲き始めで、シシウド、オオバギボウシ、ウツボグサ、イブキジャコウソウ、イブキトラノオ、カワラナデシコなどは見頃だった。今年は少し花の時期が遅れているとのことだった。

帰りは西遊歩道を下ったが、こちらは登山靴が必要と書かれていて、歩く人は少なかった。12時頃に駐車場に戻ったが、観光バスやマイカーで満車状態だった。西遊歩道を見ると行列ができていた。早目に登ったのは正解だった。

帰路、JR醒ヶ井駅に立ち寄り、近くの地蔵川の梅花藻を鑑賞させてもらった。7月下旬から8月上旬が見頃で夜はライトアップされていた。源流は湧水で水温は年間を通じて14度前後のため貴重な淡水魚『ハリヨ』も生息していた。

周辺の山 (湖北 伊吹山 & 地蔵川梅花藻)



登り口の案内板
9:30

メタカラコウ
9:23



シモツケソウ
9:40

シシウド
9:42



伊吹山頂上
10:06

イブキ
ジャコウソウ
10:07



カワラナデシコ
10:25

下山道にて
11:52



地蔵川の梅花藻
右は旧中山道
13:30

梅花藻
13:33



名所・旧跡ミニガイド（周辺の山：伊吹山）

参考資料 ホームページ他より

以下の内容はウィクペディア伊吹山の内容から抜粋して転記させていただきました。

伊吹山（いぶきやま、いぶきさん）は、滋賀県と岐阜県の県境にある伊吹山地主峰の標高1,377mの山。滋賀県最高峰の山であり、日本百名山、新・花の百名山、及び関西百名山に選定されている。一等三角点が置かれている頂上は滋賀県米原市に属し、周辺は琵琶湖国定公園に指定されている。

概要：古くから霊峰とされている。古事記では「伊服阜能山」、日本書紀では「日本武尊、更尾張に還りまして、即ち尾張氏の女宮簀媛を娶りて、淹しく留りて月を踰ぬ。是に、近江の五十葺（いぶき）山に荒ぶる神有ることを聞いたまひて、即ち剣を解きて宮簀媛が家に置いて従に行でます。膽吹山に至るに、山の神、大蛇に化りて道に当れり。」と記された。日本武尊が東征の帰途に伊吹山の神を倒そうとするが、それが彼の死を招いたとされている。藤原実方が後拾遺和歌集および小倉百人一首で収録された和歌で「かくとだに えやは伊吹の さしも草 さしも知らじな 燃ゆる思ひを」と詠んだ。これらの経緯から伊吹山は古来より歌枕として知られ、「伊吹百草（もぐさ）」が育つ薬草の山として知られていた。

濃尾平野において、冬季に北西の方角から吹く季節風が伊吹おろしと呼ばれる。この地方において校歌で、「伊吹山」に関する語句が歌詞に使われていることが多い。

環境：石灰岩の山

伊吹山は約3億年前に噴火した海底火山であった。地層は約2億5千年前の古生代に海底で形成され、ウミユリやフズリナの化石が発見された。その時期にサンゴ礁が出来たため、良質の石灰岩が産出する場所として知られている。近代のコンクリート・セメント需要の急増により、伊吹山の石灰岩も大量に採掘されてきた。そのため、山容が変形するまでになっている。南西斜面の採掘跡は緑化活動により、ある程度の植生の回復が見受けられる。平らな広い山頂部は、カルスト台地となっている。西斜面の山腹から専用のベルトコンベアで、麓のセメント工場まで原材料が搬送されている。

植物と薬草の山

山麓から山頂にかけて様々な野草の群生地があり、伊吹山頂草原植物群落が植物天然記念物に指定されている。約1,300種類の植物が生育して、コイブキアザミ *Cirsium confertissimum* などの9種の固有種がある。景観は高山

の高茎草原そのものの様相をみせる。おもなものとしてオオバギボウシ、カノコソウ、キバナノレンリソウ、クガイソウ、シシウド、シモツケ、シモツケソウ、ニッコウキスゲ、ハクサンフウロ、メタカラコウ、ユウスゲ、ルリトラノオなどがある。山麓では約 280 種の薬草が生え、揖斐川町の旧春日村古谷地区では昔から薬草を生活の糧にして生きてきた。滋賀県米原市の山麓には、薬草を利用した温泉施設がある。

伊吹山の名水

標高の高くない伊吹山だが、雪が多い気候であることから、その水が地下にしみ込み、山麓は湧水が豊富になっている。伊吹山の石灰岩層を通り抜けていることから、カルシウムの多い硬水という特徴がある。一番有名なのは、米原市（旧伊吹町）にある泉神社の湧水が名水百選に選ばれている。この他に「春照の泉(臼谷の湧水)」や、平成の名水百選に選ばれた、醒ヶ井宿にある居醒の水が有名である。

登山・観光：伊吹山は中京圏および京阪神地区からそれほど遠くない位置にあり、かつ麓を東海道本線や名神高速道路が通じているという交通の便の良さや、多くの伝説が残された名山としての知名度、夏季に山頂近くを彩る高山植物を含む野草群のお花畑と、9 合目まで伊吹山ドライブウェイで登れるという手軽さから、人気のある観光地として親しまれている。東海道新幹線や東海道本線の車窓から、その山容を望むことができる。

山頂遊歩道

主な観光コースは 9 合目駐車場まで自家用車やバスで登り、そこから 3 つある遊歩道で山頂に至るもので、山歩きに適した靴の着用が望ましい。一般に 9 合目から山頂までは 30-40 分かかるとされる。

西遊歩道は坂が緩やかで最も上りに適している。

中央遊歩道は山頂へ直登するもので、最も急坂の最短コース。

東遊歩道は最も距離が長い、下り専用（案内看板より）である。

山頂部には 5 軒の山小屋が密集し、昼（10 時から 16 時）は売店として営業しているほか、ご来光を待つ観光客や登山者のために、一部の小屋では仮眠のための宿泊も可能となっており、深夜・未明の仮眠受付も可能である。

登山コース

登山コースは数コースあるが、米原市側の上野登山口から伊吹山スキー場の中を通過する登山道を大多数の登山者が利用している。この登山道の一部は、滋賀県道 268 号伊吹山上野線に指定されている。3 合目まで車道があるが、一般車両の通行は禁止されている。また荒れた砂利道が 5 合目まで通じてい

る。3合目までのゴンドラリフト利用及び麓の上野登山口から登るのが一般的である（注、現在は伊吹山ゴンドラは運転休止中）。登山口、1合目、3合目、山頂にはトイレが整備されている。途中3合目にはお花畑、キャンプ施設及び休憩施設、5合目には売店小屋、6合目には避難小屋がある。ご来光を見るために涼しい夜間に登山することも盛んで、週末の深夜などに麓から伊吹山を望むと、登山道を行く登山者の懐中電灯の列が点々と見られることがある。伊吹山ドライブウェイも夏季は午前3時から通行可能で、ご来光を見る人のニーズに応じている。登山道の3合目付近は野草が多く自生、あるいは植えられており、3合目だけを観光ポイントとして訪問する人もいる。2合目から上部の登山道には高い樹木がないため、展望は開けるが日差しを遮るものがない。冬は、積雪の状況によりラッセルを強いられる厳しい雪山となる場合がある。

醒ヶ井の梅花藻：

湖国十景（滋賀県）の一つにかかげられる地蔵川。JR 醒ヶ井駅（サメガイ駅）から徒歩10分、湧き水を源流とする清流が目指す川。ここは中山道61番の宿場でも知られるところで、旧問屋場や資料館なども建ち並び、地域の保全にも力が入れている。

梅花藻は五弁の小花で、キンポウゲ科の水生の多年草。一輪の大きさは1センチにも満たない小花だが、梅の花に似ていることから「梅花藻」と呼ばれています。清流でないと育たないと云われることあって、地蔵川は年中14度を保つと云う、羨ましい限りの澄んだ湧き水の川である。夏にはいたるところでスイカや清涼飲料水が浸けられ、一層涼を誘う。

7月下旬から8月上旬の最盛期には、夜、水中ライトアップもあり、妖艶な景をかもし出します。花期は6月～9月。最盛期は7～8月。

交通 JR 醒ヶ井駅下車、徒歩10分

車は名神米原ICを降り、国道21号線を右折、関ヶ原方面に約10分。

車は醒ヶ井駅に隣接した駐車場に。